



9 月度議員懇談会

## 技術と社会の影響関係について

9 月度議員懇談会を9月1日午前11時から福井商工会議所ビル地下国際ホールで開催した。

開会の挨拶で川田会頭は「国内の景況感は様々で、為替は一時100円を切ったものの、再び円安へと動いた。また、

国内の先行きは比較的順調であるが、EUの影響で不透明な状況下であり、慎重な見通しを立てている。

また、雇用については、福井は失業率は1・5%と極めて低く、有効求人倍率は1・82倍と東京に次いで第2位と高いが、企業目線で見れば、人手不足であることが伺える。その動きも踏まえ、中小・規模企業の支援を進めていく」と述べた。

続いて、福井工業高等専門学校一般科

目教室講師博士の手嶋泰伸氏より「技術と社会の影響関係」をテーマに卓話が行われた。技術と社会の関係について、イギリスの産業革命を例に「需要や利益がなければ、技術は生み出されても実用化されない。産業革命も技術革新に加え、需要があったからこそ実現した」と語った。また、鯖江市の鉄道普及事例を取り上げ、定刻に出発する鉄道によって時間を守る生活習慣が生まれたことや、鉄道の誘致が商業の中心部の移動をもたらししたこと等を説明。「社会と技術は相互に影響を及ぼし合っている」と結んだ。

次に、県内5大学連携による地方創生推進事業（COC+）について、国立大学法人福井大学副学長の岩井善郎氏が説明した。「県内4年制大学の一部授業の単位を相互に乗り入れし、各大学の特色や強みを生かしたカリキュラムを

受講してもらおう。また、それを認定条件とした「ふくい地域創生士」の認定制度を設けることで、ふくいの担い手の育成や、地域人材の活性化、底上げを目指す」と述べた。

最後に、各課より開催予定のセミナーやイベントの説明と、実施事業の結果報告が行われた。



社会と技術の関係性について話す手嶋氏

### 【議員異動】

(株)福邦銀行

(新) 渡邊 健雄

(代表取締役頭取)

(旧) 東條 敬

(代表取締役頭取)